

καίρος

「カイロスブックス」シリーズ最新刊

καίρος  
カイロスブックス

工藤信夫  
向谷地生良

2016年に起きた相模原障害者施設殺傷事件、そして連日報道される施設での虐待と暴力——。人が尊厳をもって生きるために必要なものは何か。精神障害当事者と関わる精神科医・工藤氏とソーシャルワーカー向谷地氏との珠玉の対談&エッセイ。

いのちのことば社

これからの医療と  
キリスト教福祉

# これからの医療と キリスト教福祉

工藤信夫・向谷地生良 共著

2016年に起きた相模原障害者施設殺傷事件、そして連日報道される施設での虐待と暴力——。人が尊厳をもって生きるために必要なものは何か。精神障害当事者と関わる精神科医・工藤氏とソーシャルワーカー向谷地氏との珠玉の対談&エッセイ。

工藤 信夫（くどう・のぶお）

医学博士。平安女学院大学名誉教授。1945年、秋田県に生まれる。弘前大学、大阪大学において精神医学を学ぶ。アメリカの南メソジスト大学およびベイラー大学医学部に留学。淀川キリスト教病院精神科医長、ルーテル学院大学社会福祉学科教授を経て、現職。神戸ルーテル神学校講師も務める。著書『人を知り人を生かす』『心の病とキリスト教キリスト者の関わり』『信仰による人間疎外』『信仰者の自己吟味』『今を生きるキリスト者』『人生を支え、導くもの』『真実の福音を求めて』（いのちのことば社）、『福音はとどいていますか』（共著、ヨルダン社）、『トゥルニエを読む！』（ヨベル）ほか。

向谷地 生良（むかいやち・いくよし）

ソーシャルワーカー。北海道医療大学看護福祉学部臨床福祉学科精神保健福祉学講座教授。社会福祉法人浦河べてるの家の理事。1955年青森県生まれ。1978年より浦河赤十字病院医療社会事業部に勤務。79年より、町の古い教会（後のべてるの家）を拠点として、精神障害を体験したメンバーと共に、当事者の交流活動と共同生活を開始。84年に「浦河べてるの家」発足。2002年、全国で初めて当事者が理事長・施設長に就任し、社会福祉法人を設立。03年より北海道医療大学看護福祉学部臨床福祉学科で、ソーシャルワーカーの養成にあたりながら、メンバーと共に、「当事者研究」の普及を目指し、全国各地を飛び回る日々。著書『べてるの家の「非」援助論』（医学書院）、『増補改訂「べてるの家」から吹く風』『精神障害と教会』（いのちのことば社）ほか。

四六判 122頁 定価1,100円(本体1,000円+税)

ISBN978-4-264-04429-1 C0016

いのちのことば社 卸コード 29825